

容器包装の3R 推進のための自主行動計画 2009 年フォローアップ報告

2009 年 12 月

3R 推進団体連絡会

ガラスびんリサイクル促進協議会
PET ボトルリサイクル推進協議会
紙製容器包装リサイクル推進協議会
プラスチック容器包装リサイクル推進協議会
スチール缶リサイクル協会
アルミ缶リサイクル協会
飲料用紙容器リサイクル協議会
段ボールリサイクル協議会

事業者による 3R 推進の 2008 年度実績概要

- リデュース： 多くの容器で着実にリデュースが進んでいます。
- リユース： リターナブルシステムの調査・研究を継続しています。
- リサイクル： 一部の容器・包装でリサイクル率等が低下したものの、全体として着実に進展しています。

主体間の連携に資する取り組み

- 八団体共同の取り組みの展開
 - ・独自企画の連携イベント開催：フォーラム、セミナー、3Rリーダー交流会
 - ・各種展示会への共同出展
 - ・消費意識調査（インターネット調査）の実施
 - ・ACジャパン（旧：公共広告機構）で容器包装のリサイクルをPR
- 共通テーマ（普及啓発と調査研究）に基づき各団体の取り組みを展開

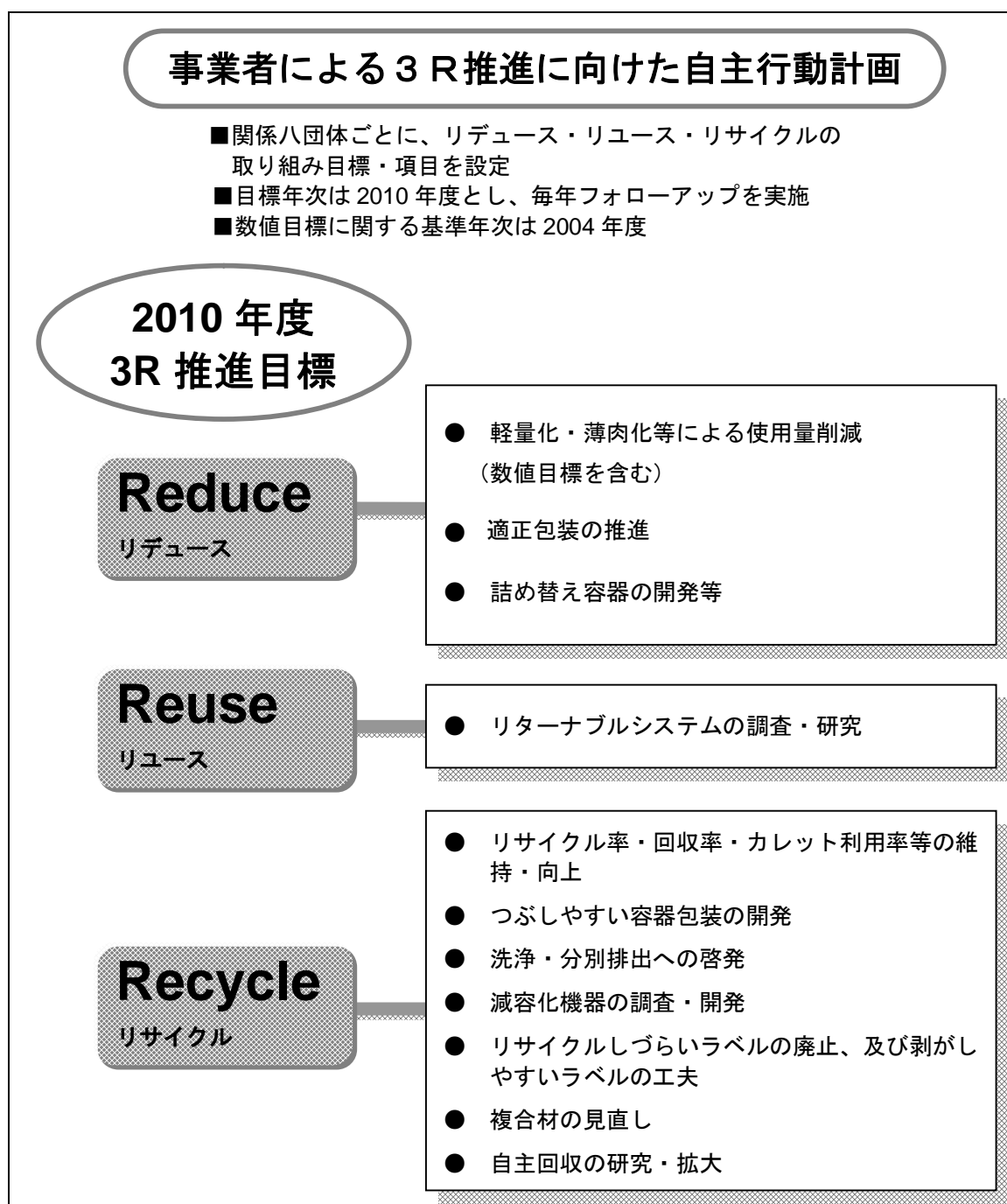
目 次

はじめに	1
1. 事業者による 3R 推進の 2008 年度実績概要	3
1.1 リデュース	3
■軽量化・薄肉化等による使用量削減（数値目標）	3
■適正包装の推進／詰め替え容器の開発等	4
1.2 リユース	4
1.3 リサイクル	5
■リサイクル率・回収率等の維持・向上（数値目標）	5
■リサイクル推進のための事業者の取り組み	5
1.4 その他識別表示等の推進	6
2. 主体間の連携に資する取り組みの実績概要	7
2.1 関係八団体共同の取り組み	7
2.2 共通のテーマに基づく各団体の取り組み	11
3. 今後の取り組み	15
2008 年度団体別フォローアップ結果	17
ガラスびんリサイクル促進協議会	18
PET ボトルリサイクル推進協議会	22
紙製容器包装リサイクル推進協議会	26
プラスチック容器包装リサイクル推進協議会	30
スチール缶リサイクル協会	34
アルミ缶リサイクル協会	38
飲料用紙容器リサイクル協議会	42
段ボールリサイクル協議会	46

はじめに

容器包装に係るリサイクル八団体で構成される「3R 推進団体連絡会」（以下、「連絡会」という。）は、2006 年（平成 18 年）3 月 28 日に「容器包装の 3 R 推進のための自主行動計画」（以下、「自主行動計画」という。）を公表し、各事業者の自主的な取り組みによる容器包装の 3 R 推進、及び主体間の連携に資する取り組みの推進を表明しました。

自主行動計画は 2010 年度を目標年次とし、下図のとおり「事業者による 3 R 推進に向けた自主行動計画」、及び「主体間の連携に資する取り組み」を 2 本の柱としています。このフォローアップは、自主行動計画の 3 年度目にあたる 2008 年度の取り組み結果をまとめたものです。



主体間の連携に資するための行動計画

■消費者に対する普及啓発活動や、各種調査・研究活動への参画・実施を通じ、消費者・自治体・国等との連携に資する取り組みを展開

関係八団体共同の 取り組み

容器包装廃棄物の3R推進・普及啓発のため、

- フォーラムの開催
- セミナーの開催
- 各団体ホームページのリンク化・共通ページの作成等による、情報提供の拡充
- エコプロダクツ展への共同出展

各団体が取り組む 共通のテーマ

■情報提供・普及活動

(各団体の既存の取り組みの活用も含む)

- ・環境展等の展示会への出展協力及び充実
- ・3R推進・普及啓発のための自治体・NPO・学校等主催のイベントへの協賛と協力
- ・3R推進・普及啓発のための自治体・NPO等の研究会への参加と協力
- ・3R推進・普及啓発のための共同ポスター等の作成

■調査・研究

- ・分別収集・選別保管の高度化・効率化等の研究会への協力
- ・分別収集効率化等のモデル実験への協力
- ・リターナブルびんのモデル実験の実施
- ・店頭回収・集団回収の高度化及び品質向上化等の研究会への協力
- ・消費者意識調査の実施

1. 事業者による 3R 推進の 2008 年度実績概要

事業活動における容器包装の 3R（リデュース・リユース・リサイクル）推進については、2004 年度を基準年次、2010 年度を目標年次として、関係八団体ごとに数値目標・取り組み目標等を立てています。2008 年度取り組み実績の概要は以下のとおりです。計画及び実績の詳細については、各団体の発表資料をご参照ください。

1.1 リデュース

多くの容器で着実にリデュースが進んでいます。

リデュースは地球資源の保護の観点から優先的に取り組むべき事項として、循環型社会形成推進基本法にも掲げられており、当連絡会でも容器包装の軽量化・薄肉化や適正化等に取り組んでいます。

■軽量化・薄肉化等による使用量削減（数値目標）

容器包装は様々な形状がありますので、リデュースの数値目標は各容器の特性に合わせた指標を採用しています。表 1 に見るとおり、多くの素材で着実にリデュースを推進しています。

軽量化や薄肉化を進めるに当たっては、容器包装に本来求められる機能、すなわち「安全・安心」のための品質の保持、運搬時の内容保護などの機能を損なわないようにすることが求められます。さらに、トータルのエネルギー使用量や地球温暖化ガスの増加が伴わないよう、配慮する必要があります。これらの課題を乗り越えるための技術開発、設備投資も含め、各団体とも 2010 年度目標に向けた着実な取り組みを進めていく所存です。

表 1 リデュースに関する 2008 年度実績（2004 年度比）

素材	2010 年度目標 (2004 年度比)	2008 年度実績	(参考) 2007 年度実績
ガラスびん	1 本あたりの平均重量を 1.5%軽量化する。	1 本当たりの平均重量を、1.4%軽量化 (参考：軽量化重量 1,527 トン 7 品種 26 品目軽量化)	1 本あたりの平均重量を 1.3%軽量化
PET ボトル	主な容器サイズ・用途ごとに 1 本あたりの平均重量を 3 %軽量化する。	主な容器サイズ・用途計 15 種のうち 13 種で 0.1%～11.0%軽量化	主な容器サイズ・用途 15 種の内 8 種で 0.9～10.0%軽量化
紙製容器包装	2 %削減する。	1.3%削減	0.5%削減
プラスチック製容器包装	3 %削減する。	①事例として把握した削減量 1,375 トン ②原単位改善効果の換算値 12,856 トン	①事例として把握した削減量 4,617 トン ②原単位改善効果の換算値 4,293 トン

(表 1 続き)

素材	2010 年度目標 (2004 年度比)	2008 年度実績	(参考) 2007 年度実績
スチール缶	1 缶あたり平均重量で 2 % 軽量化する。	1 缶あたりの平均重量 を 2.0%軽量化	1 缶あたり平均重量 1.1%軽 量化
アルミ缶	1 缶あたり平均重量で 1 % 軽量化する。	1 缶あたりの平均重量 を 0.8%軽量化	1 缶あたり平均重量 0.5%軽 量化
飲料用紙容器	重量を平均 1 %軽量化す る。	現状維持	現状維持
段ボール	1 m ³ あたりの重量を 1 %軽 量化する。	1 m ³ あたりの平均重量 を 0.9%軽量化	1 m ³ あたり 0.7%軽量化

■適正包装の推進／詰め替え容器の開発等

リデュースのための包装の適正化、詰め替え容器の開発等も各企業により進められています。プラスチック製容器包装リサイクル推進協議会傘下の日本ポリエチレン製品工業連合会では、大学等と共同で適正包装へのアプローチとして、具体的事例に基づく過剰包装の見直しに取り組んでいます。また、紙製容器包装リサイクル推進協議会では、実績を上げている各社の成果をまとめた「3R改善事例集」を制作し活用することで、業界全体のレベルアップを図るべく取り組みを進めています。

1.2 リユース

リターナブルシステムの調査・研究を継続しています。

◇ガラスびんリサイクル促進協議会では、リターナブルびんポータルサイトを構築し、2009 年 2 月サイトを公開しました。リターナブルに取り組む企業・商品紹介をはじめ、さまざまなリターナブルびんに関する情報を掲載し、活動の「見える化」を行いました。

2009 年には、サイトの普及啓発と地域での活動促進を目的に、東京・京都・仙台・名古屋・福岡（22 年 2 月予定）の 5 地区で地域シンポジウムを開催しました。

量販市場における空びん回収システムの研究会と、外食居酒屋チェーンでのリターナブル商品の取り扱いシステムモデル事業を実施しています。

◇PET ボトルリサイクル推進協議会は、2008 年 3 月から始まった環境省の「ペットボトルを始めとした容器包装のリユース・デポジット等の循環的な利用に関する研究会」に参加し、データ提出等に協力しました。研究会では課題となっていたリターナブル PET ボトルの安全性やリユースとワンウェイ PET ボトルの環境負荷の比較評価において、次の結果が報告されました。

1) リターナブル PET ボトルの消費者誤用実験について

代理汚染物質を入れ、洗浄した結果、PET ボトル内壁に汚染物質が吸着し、除去できない。また、内容物を充填した結果、汚染物質が許容濃度を超えて溶出することが確認され、臭気物質感知器による選別が不可欠である。

2) 環境負荷（エネルギー消費量、CO₂排出量）について

ワンウェイ PET ボトルは、リターナブル PET ボトルに比べ、90%以上の高回収率で短い輸送距離（100km 未満）のクローズドシステム（宅配等）を除いて、オープンシステム（店頭販売等）では環境負荷が小さい。

1.3 リサイクル

一部の容器・包装でリサイクル率等が低下したものの、全体として着実に進展しています。

■リサイクル率・回収率等の維持・向上（数値目標）

リサイクル率・回収率の 2008 年度実績は表 2 に示すとおりです。

2008 年度実績を見ると、着実に進展し、目標を達成している容器もある一方で、2007 年度実績より低下した容器もあります。これは、昨年秋以降の景気変動の影響が要因の一つとして考えられます。今後とも、分別排出を行う消費者、分別収集を行う自治体の皆様のご協力をいただきながら、リサイクルの推進を図っていく所存です。

表 2 リサイクル率・回収率に関する 2008 年度実績

素材	指標	2010 年度目標	2008 年度実績	(参考) 2007 年度実績
ガラスびん※1	リサイクル率 (カレット使用率)	70%以上 (75%以上)	66.5% (73.8%)	70.1% (72.7%)
PET ボトル	回収率	75%以上	77.9%	69.2%
紙製容器包装	回収率	20%以上	14.2%	15.4%
プラスチック製 容器包装	収集率	75%以上	59.0%	58.1%
スチール缶※2	リサイクル率	85%以上	88.5%	85.1%
アルミ缶※3	リサイクル率	90%以上 (85%以上)	87.3%	92.7%
飲料用紙容器	回収率	50%以上	42.6%	41.1%
段ボール	回収率	90%以上	95.6%	95.5%

※1 ガラスびんは「カレット使用率」（1 本のびんにおける再生材使用割合）を参考指標として採用。

※2 スチール缶は、缶スクラップ以外の規格として再資源化されているスチール缶の一部を調査し、更にリサイクル率の精度をあげた。

※3 アルミ缶は 2007 年に 2010 年度目標の見直しを行った。（）内は 2006 年の当初目標。

■リサイクル推進のための事業者の取り組み

事業者においては、リサイクル性の向上のための技術開発や各種の普及・啓発活動及び自主回収の拡大・研究活動を展開しました。主な事例を表 3 に示します。詳細は各団体資料をご参照ください。

表3 リサイクル推進のための事業者の取り組み事例

項 目	取り組み事例
リサイクル性の向上	<p>つぶし易い容器包装の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 段ボール業界としてたたみ易い段ボールの具体例を調査し、調査結果をホームページ掲載した。(段ボール) ・ 紙箱にミシン目を入れて廃棄時に折りたたみ易くする工夫や、複合容器だが単一素材に分離容易な容器の開発などが取り組まれている。(紙製容器包装) <p>減容化可能容器、洗い易い形状の研究・開発等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ つぶし易さ、汚れの付着しにくさ、洗い易さ等の改善事例を収集し、その結果を3R推進事例集として取りまとめ、関係部署に紹介。また、ユニバーサルデザインを考慮した減容化容器の開発、易分離についての研究・開発や、複合素材についての複合フィルム構成、レトルトパウチフィルムの基材構成等について取り組んだ。(プラスチック製容器包装) <p>リサイクルしづらいラベルの廃止、はがし易いラベルの工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アルミ箔ラベルを使用しない等ガラスびんの3Rを推進するための自主設計ガイドラインを設定し、びんメーカー、主要ボトル団体へ協力要請を行った。(ガラスびん) <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ PETボトルの自主設計ガイドライン遵守を目的にガイドライン分科会にて、着色ボトルなどの調査を行い、問題のあった会員外の企業にその遵守を要請し、是正を図った。(PETボトル) ・ スチール缶を含めた鉄スクラップの資源循環の高度化及び質の向上を目的に、(社)日本鉄源協会にて「鉄スクラップ検収統一規格」の改定を行った。
洗浄・分別排出等への普及啓発	⇒11 ページの「各団体の情報提供・普及活動」をご参照ください。
自主回収の研究・拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小売酒販店で酒パックを回収するエコ酒屋の取り組みなどを進めている、NPOと協働した「酒パックリサイクル促進協議会」の活動を支援している。(紙製容器包装) ・ 2005年度より、多様な回収の一つである協働型集団回収の調査を継続中。尚2008年度よりスチール缶集団回収への支援事業を継続中。スチール缶リサイクル率精度向上のため2009年度缶スクラップの再資源化工程の追加調査実施。(スチール缶) ・ 全国約800の回収拠点にアルミ缶の回収状況についての調査を実施した。08年度後半のアルミスクラップ価格の下落影響が懸念されたが、回収量において07年度と顕著な差は見受けられなかった。(アルミ缶) ・ 紙パック回収ボックスを学校、自治体、市民団体、作業所、企業およびスーパー等の施設へ1,670個（過去累計で14,215個）配付。また全国で回収成果を上げている活動組織を紹介する回収事例集を発行し配布（飲料用紙容器）

1.4 その他識別表示等の推進

その他各団体においては、自主設計ガイドラインの策定・運用による環境配慮設計の推進、容器包装への識別表示の実施率の向上などを展開しています。詳細は各団体資料をご参照ください。

2. 主体間の連携に資する取り組みの実績概要

2.1 関係八団体共同の取り組み

容器包装リサイクル法改正の趣旨を踏まえ、消費者・自治体・事業者による主体間の連携を進めることが必要との認識に基づき、当連絡会では事業者としての自主行動計画推進と並行して、各主体の意見交換を促進するためのフォーラムの開催、啓発の場としてのセミナーの開催や展示会への共同出展など、様々な取り組みを推進してまいりました。また、新たな取り組みとして、3Rに関する消費者意識調査も実施しました。

表4がこれまでの主な取り組み実績です。2008年度から2009年度にかけての取り組みの詳細については、9ページの参考1をご参照ください。

表4 主体間連携のための取り組み（2008年・2009年）

年 度	主な取り組み
2009 (予定を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ■ フォーラム 『容器包装 3R 推進フォーラム in 京都』（10/22・23 京都市） ■ セミナー 仙台市での開催を予定（2010年2/2） ■ 3R リーダー交流会 市民リーダーとの2回の交流会・ワーキングを開催 市民ワークショップの開催を予定 ■ マスコミと共に創る 3R 新時代フォーラムを開催（9/18 東京都港区） （NPO 法人持続可能な社会を作る元気ネットとの共催） ■ 展示会への共同出展 3R 活動推進フォーラム全国大会（10/16～18 千葉市） エコプロダクツ 2009（12/10～12 東京ビッグサイト） ■ 消費者意識調査の実施 ■ ACジャパン（旧：公共広告機構）支援による啓発事業の展開
2008	<ul style="list-style-type: none"> ■ フォーラム 『容器包装 3R 推進フォーラム in 東京』（10/6・7 東京都江東区） ■ セミナー 京都市京都商工会議所で実施（2009年3/7） ■ 3R リーダー交流会 5回の交流会を実施（6/30・8/27・10/17・12/19・2009年1/16） ■ 展示会への共同出展 3R 活動推進フォーラム全国大会（10/24～26 山形市） エコプロダクツ 2008（12/11～13 東京ビッグサイト） ■ 3R 推進団体連絡会ホームページの開設 ■ ACジャパン（旧：公共広告機構）支援による啓発事業の展開

青文字の項目は9ページ参考1に紹介

表 5 （参考）主体間連携のための取り組み（2006 年・2007 年）

年 度	主な取り組み
2007	<ul style="list-style-type: none"> ■ フォーラム 『容器包装 3R 推進フォーラム in 神戸』（9/19・20 神戸市） ■ セミナー 『みんなが主役！共に行動するための 3R セミナー』（10/19 北九州市） 『みんなが主役！共に行動するための 3R セミナー』（2008 年 2/18 川崎市） ■ 3R リーダー交流会 4 回の交流会を実施（7/31・9/7・11/30・2008 年 1/17） ■ 展示会への共同出展 3R 活動推進フォーラム全国大会（10/17～19 北九州市） エコプロダクツ 2007（12/13～15 東京ビッグサイト）
2006	<ul style="list-style-type: none"> ■ フォーラム 『容器包装リサイクルフォーラム in 横浜』（8/29・30 横浜市） ■ セミナー 『みんなが主役！共に行動するための 3R セミナー』（2007 年 2/28 東京都北区） ■ 展示会への共同出展 3R 活動推進フォーラム全国大会（10/19～21 名古屋市） エコプロダクツ 2006（12/14～16 東京ビッグサイト） ■ 共通ポスター作成 ■ 各団体ホームページのリンク化

（参考１）主体間の連携に資するための関係八団体共同の取り組み

フォーラムの開催

3R推進団体連絡会の「主体間の連携に資する取り組み」の一環として、自治体担当者の方を主な対象とするフォーラムを開催しました。このフォーラムでは、容リ法の改正を経て、容器包装3Rと分別収集の先進的な取り組み事例の学習、それらに係わる情報交換・議論等のプログラムを通じ、消費者・自治体・事業者がどのような連携の形を目指したらよいか話し合い、方向性を共有することを目的としています。

●2009年度フォーラム in 京都(2009年10月22、23日)

今年で4回目となるフォーラムは、「自治体、事業者、市民の連携による容器包装3Rの取組推進へ」をテーマに、10月22日・23日の2日間にわたり開催されました。

初日は会場である京都市男女共同参画センター ウィングス京都に245名の来場者を迎え、京都大学大学院経済学研究科植田和弘教授の基調講演や4つの分科会が行われました。分科会のテーマは、リデュース・リユース・分別収集・多様な回収システムです。

2日目は55名の参加で、京都市の南部資源リサイクルセンターや京エコロジーセンターなどの視察と意見交換を行いました。



フォーラム全体会



フォーラム分科会

セミナーの開催

容器包装に関する消費者・自治体・事業者の取り組みの現実を知ること、地域での3R活動をするにあたっての課題解決など、様々な主体と共によりよい取り組みにつなげていくためのきっかけづくりとなることを目指してセミナーを開催しています。

テーマは、『容器包装3R連携 市民セミナー』と掲げて実施しています。

なお次回は、2010年2月2日に仙台市での開催を予定しています。

●2008年度3Rセミナー in 京都(2009年3月7日)

2008年度のセミナーは、京都市京都商工会議所を会場にして行われました。

当日の参加者は208名。日々地域で3R活動に参加している方々や、3Rに関心を持っている市民の参加で、NPO等を含めると市民のご出席が5割を超える結果となりました。



セミナー風景（京都市）

3Rリーダー交流会

2007年度より、消費者・事業者のネットワーク構築の場として交流会を実施しています。

2008年度は5回の交流会を消費者(11名)と事業者(8名)の構成で開催しました。市民が知りたいこと、事業者が伝えたいことを具体的に示す中で、相互理解を深め、3R行動の推進につながる課題について話し合いました。

2009年度交流会では、市民にとって必要と思われる情報の提供ツールについて、市民リーダーと各2回の交流会とワーキングで具体策を検討し、それを活用した市民ワークショップの開催を計画しています。

展示会への出展

●エコプロダクツ 2008 への出展

昨年に引き続き、日本最大の環境イベントであるエコプロダクツ 2008(2008 年 12 月 11～13 日)に、3R推進団体連絡会を構成する八団体が共同出展を行いました。



エコプロダクツ 2008 共同出展

●3R推進全国大会への出展

2009 年の 3R 推進全国大会(第4回)は、環境省、千葉市、3R活動推進フォーラムの主催にて、10 月 16～18 日の日程で、千葉ポートアリーナ他を会場に開催されました。

当連絡会は「ちばし環境展」へのブース出展を行いました。

3Rに関する消費者意識調査

一般消費者の「3R」に関する意識調査と行動の実態把握・分析のためのインターネット全国調査(モニター数：3,000)を実施しました。

今後の 3R 活動推進のための基礎データとします。

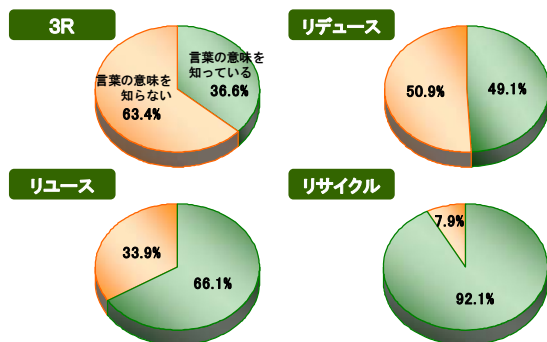
消費者意識調査報告(一部)

「3R」に関連する言葉の理解度

「3R」の言葉の理解度は36.6%

(n=3000)

「リサイクル」はほぼ全員が言葉の意味を理解



ACジャパン支援による啓発

ACジャパンの支援事業として、前年度に引き続き 3R 推進啓発広告を展開しています。「リサイクルの夢」をテーマに制作し、媒体は、テレビ・ラジオのスポット広告と新聞・雑誌広告に加え、今年度は交通広告を実施しています。

このような多様な媒体を活用した広告は、普段ごみ問題にあまり関心を持っていない層にも届く、事業者団体ならではの効果的な普及啓発活動と位置付けており、2010 年度も引き続きACの支援を受け広告を展開する予定です。



AC 支援広告

マスコミ参加のフォーラムを開催

NPO 法人持続可能な社会を作る元気ネットとの共催で、『マスコミと共に創る 3R 新時代フォーラム』を 2009 年 9 月 18 日に港区の世界貿易センタービルで開催しました。

当日は、マスコミ関係者を含め 91 名の参加があり、前述の消費者意識調査の報告、マスコミ人をパネラーとした「暮らしに響くマスコミのエコ発信！」懇談会や、消費者・事業者・行政の参加者も交え意見交換が行われました。

パネルディスカッション



2.2 共通のテーマに基づく各団体の取り組み

上記の「共同の取り組み」に加え、本自主行動計画では「①各種情報提供や普及活動の推進」「②調査研究活動」を主体間の連携に資する共通テーマとして掲げ、各団体にて取り組むことを促しています。2008 年度も引き続き、多様な各種啓発活動、交流活動、調査研究活動が展開されました。主な取り組み内容は以下の参考2をご参照ください。

(参考2) 各団体の情報提供・普及活動／調査・研究活動の例

情報提供・普及活動

●情報ツールの改善

◇ガラスびんリサイクル促進協議会では、ホームページ『キッズサイト』を動画も取入れ全面リニューアルしました。啓発冊子として「ガラスびんの3R」・「ガラスびんBOOK」の制作・配布や「びんの流れ」(ポスター)も広く展開しています。



ホームページ：キッズサイト



リユース・リサイクルの流れを解説したポスター

●広報誌の発行

◇PET ボトルリサイクル推進協議会では、3R推進情報を幅広く提供するため広報誌RINGを年2回発行しています。詳細はホームページにてご覧下さい。



RING22号(2008年10月発行) RING23号(2009年4月発行)

●3R改善事例集を作成・配布

◇紙製容器包装リサイクル推進協議会では、紙製容器包装の3Rで実績を上げている各社の成果をまとめた「3R改善事例集」(第2版)を作成しました。業界全体のレベルアップの促進を図るとともに、主体間連携のための情報提供ツールとして活用・配布しています。



3R 改善事例集 第2版

●自治体との意見交換会を実施

◇プラスチック容器包装リサイクル推進協議会では、2009年1月に自治体関係者105名、事業者55名で第3回の交流会を開催し、意見交換を行いました。



自治体との意見交換会

●学校向け壁新聞等作成・配布、環境展での啓発

◇スチール缶リサイクル協会では、“リサイクルの優等生”であるスチール缶のリサイクルをわかり易く解説した壁新聞「スチール缶リサイクルの旅」を製作し、全国22,000の小学校及び壁新聞を購読している中学校・高校に配布掲示していただきました。更にスチール缶のリサイクル推進を普及啓発するため、地域での環境展等への出展・協力を増やしています。



学校掲示用壁新聞
「スチール缶
リサイクルの旅」



びわ湖ビジネス環境フェア 2009 での
出展風景

●3R 推進功労者表彰への推薦

◇アルミ缶リサイクル協会では、3R に取り組む団体、個人13件を3R推進協議会に推薦し、そのうち6件が受賞しました。1件が環境大臣賞、5件が3R推進協議会会長賞の受賞となり、大臣賞の「ながしまエコの会(三重県桑名市)」は、エコステーションを設置する等、地域住民と楽しみながら行う3R活動が認められました。



環境大臣賞を受賞したながしまエコの会の皆さん

●地域会議・講習会等の開催と啓発図書の発行

◇飲料用紙容器リサイクル協議会では、市民・自治体・学校・事業者の全関係者を招集して行うリサイクル促進活動として、意見交換会、県単位の地域会議を開催した他、市町村市民へのリサイクル講習会、学校での出前授業を展開した。また、今年度図書「紙バック宣言」を出版し広く容器やリサイクル行動への理解浸透を図った。



リサイクル講習会（上）・地域会議（下）

●児童向けリサイクルパンフレットの作成・配布

◇段ボールリサイクル協議会では、段ボールのリサイクルについて児童向けに分かり易く説明したパンフレットを作成して各種イベント等で配布しました。



調査・研究

●リターナブルびん もっと知ろうよ！大作戦(シンポジウム)の展開

◇ガラスびんリサイクル促進協議会では、東京(7月)・京都(9月)・仙台(10月)・名古屋(11月)・福岡(2010年2月)に地域の行政・NPO・企業が参画して、リターナブルびん促進に向けた地域シンポジウムを実施しました。



(11月6日：名古屋会場)

●自治体との3R連携研究会を開催

◇PETボトルリサイクル推進協議会では、自治体と事業者の連携を進めることを目的に「PETボトル3R連携研究会」を開催しています。2008年度は、手引書「PETボトルガイドブック～3Rに向けた取り組み・連携のために～」の作成を目標にしました。前年に引き続き、自治体(8市区)の参加のもと研究会を4回開催し、ガイドブックをまとめ、刊行しました。

また、18の自治体を集めて「PETボトル3R連携推進フォーラム」を開催しました。



ガイドブックは、ホームページにて公開しています。詳細は、ホームページをご覧ください。

PETボトルガイドブック

●組成分析などの現場調査を実施

◇紙製容器包装リサイクル推進協議会では、自治体の分別収集の実状について8市のヒアリング調査と、5市の組成分析調査を実施しました。



紙製容器包装の組成分析調査写真

◇プラスチック容器包装リサイクル推進協議会では、年、組成分析調査を継続して行っています。より効果的な分別収集・再商品化を目指し、自治体とのモデル事業に取り組んでいます。



プラスチック製容器包装の組成分析調査

●高付加価値再資源化状況・現状の集団回収状況の調査を実施

◇スチール缶リサイクル協会では、再資源化工程における高付加価値化・効率化としての、スチール缶スクラップのシュレッター処理状況を把握すべく、全国を8地域に区分し、スチール缶のシュレッター処理を行っている事業者を訪問し調査を行いました。また 2005 年度より実施している集団回収の調査を継続しており、今年度は、更に今までの調査結果を集大成すべく、手引書「スチール缶集団回収の手引(仮題)」の作成を進めています。



シュレッター品
調査の様子



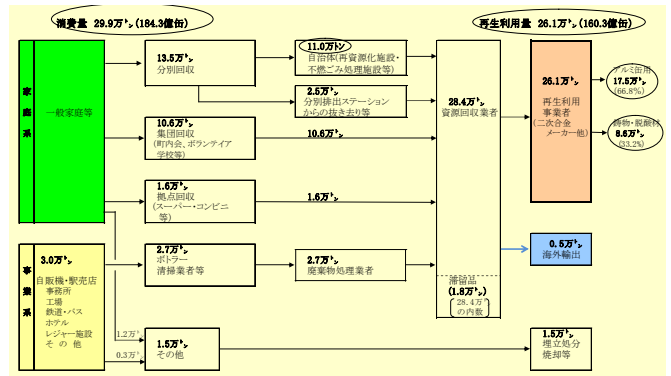
集団回収
調査の様子

●家庭から排出される段ボールなどの調査

◇段ボールリサイクル協会では、(財)古紙再生促進センターから委託を受けて、家庭から排出される段ボールの家庭への搬入経路別、用途区別排出量の調査(2008 年 9 月)、また独自に段ボール製造事業所における段ボールのリサイクルマークの印刷調査(2007 年 10 月から 3 か月ごとに実施)を実施しています

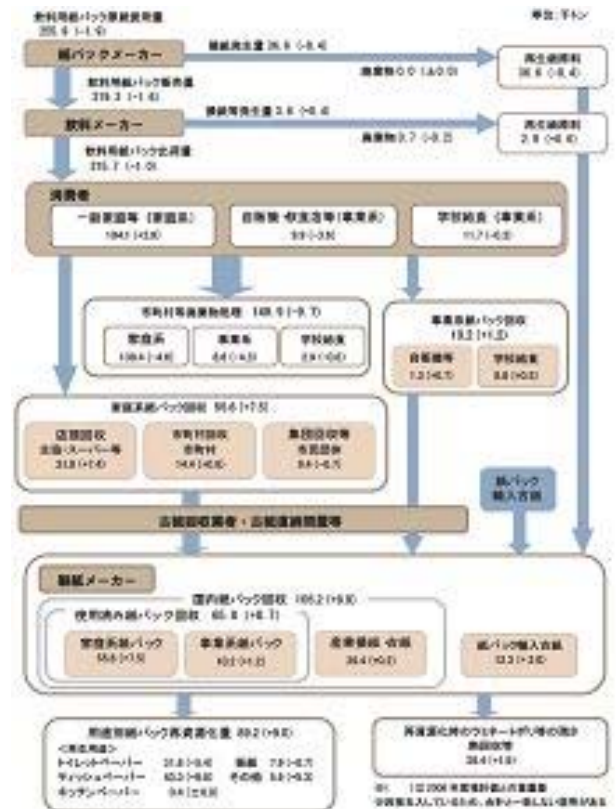
●リサイクルフローなどに関する調査

◇アルミ缶リサイクル協会では、リサイクル率に影響する使用済みアルミ缶の海外輸出について調査し、07 年度から参考として輸出分を含めたリサイクル率を公表することにしました。



アルミ缶マテリアルフロー調査

◇飲料用紙容器リサイクル協議会では、1995 年より独自調査による飲料用紙容器リサイクルの現状と動向に関する基本調査を毎年実施しています。資源のマテリアルフローの作成、紙パックの各分野ごとの回収率や回収業者などが有償で買い取っている価格の掌握など、全般的な調査分析を実施し、その結果を公表しました。



紙パックマテリアルフロー調査

3. 今後の取り組み

各団体による3Rの取り組みの推進

当連絡会の構成各団体では、引き続き2010年度の目標年次に向け、リデュース・リユースはもとより、リサイクルについても着実な資源循環をめざした取り組みを進めていきます。

主体間の連携に資する取り組みを継続して、さらに深化させていきます。

フォーラム・セミナーの開催、展示会への出展といった共同の取り組みは現時点で4年目を迎えました。これまでの蓄積を活かし、さらに消費者や自治体等との連携を深めていくと共に、構成各団体が独自に展開する連携の取り組みを深化させていきます。

今後とも消費者・自治体・国等の関係者の皆様のご指導、ご協力を賜りますようお願いする次第です。